



# あいかんきょう



2014/10/20

会報・第121号



## 「真紅の秋と、稔りの秋」

撮影地：愛知県半田市矢勝川  
撮影日：平成26年9月23日

提供：豊田 豪氏  
(株)アイエンス

### 四季折々

先日、「レインボーメーカー」を購入しました。ソーラーパワーで動くモーターがスワロフスキークリスタルを回転させる仕組みで日当たりのよい窓際にはって、部屋に虹色の光を拡散させるものです。部屋の中を七色の細かい光がゆっくり動いている様子はとても癒されます▼そういえば、私はこの夏、空にかかる虹を見ませんでした。一般的には夕立の後見られることが多いため夏の季語となっているようです。この夏はスコールのような雨が多かったので、見る機会も多かったのでは？と思いましたが…▼ここで、虹について少し調べてみました。虹は太陽の光が空気中にある丸い水の粒で屈折して発生します。太陽の位置が低いときのほうが大きな弓状の虹が見えやすく、逆に太陽の位置が高いときは、見えにくいそうです。雨粒の大きさも関係があるようで、大粒のものより小雨のほうが見えやすいとのこと。そうなると、これからの秋から冬にかけてのほうがきれいな虹を見ることができると季節ということのようですね▼今度、雨があがったらゆっくり空を見上げてみようかなと考えています。





# 平成二十六年 第一回ブロック会議報告

## 第一〜第四ブロック

平成二十六年度第一回目のブロック会議は、初の試みとして尾張地区の第一〜第四ブロックの合同会議として九月八日に日本特殊陶業市民会館第一会議室で行われました。

今回は災害緊急時対応委員会の主催で地震災害時に備えた勉強会として、愛知県環境部環境活動推進課の大谷真弓課長補佐をお招きして、事故・災害時の化学物質対策についてご講演をいただくことになりました。これは愛環協が平成二十三年に愛知県と「災害時における化学物質等の調査に関する協定書」を締結していることに関連したもので、愛環協会員の皆様が多数参加する機会であるブロック会議の場が最も適切ではないかと考えられました。そこで尾張地区の第一〜第四ブロックの合同会議と三河地区の第五ブロック会議の二回のご講演いただきました。

当日はまず初めに、愛知県の



大谷真弓課長補佐のご講演をいただきました。講演の内容は、化学物質に関する事故事例を元に対策方法についてご説明いただきました。そして、各事業所ごとに地震災害時を想定した化学物質等の流出・拡散防止対策のマニュアル作りの必要性をご説明いただきました。

一時間以上に及んだ大谷様のご講演は非常に内容の濃いもので、特に事故・災害時にはパニックになってしまいがちなので予め要点をしっかり押さえたマニュアルの作成が必要であることとを改めて認識させられました。



大谷真弓課長補佐

次に第三ブロック長の藤吉工業(株)柴田様の進行により第一〜二回理事会の報告があった後、河野代表理事より主に日環協の取組と愛環協の連携についてご

説明をいただき、会議は終了となりました。

会議終了後は会場を移して懇親会を開催しました。参加者は第一ブロック十二名、第二ブロック八名、第三ブロック四名、第四ブロック五名の合計二十九名でした。最近では懇親会に参加していただける会員が少なくなっている傾向にあり、さびしい思いをしていますが、今回は普段お会いできない方々とも大勢で酒を酌み交わしながらお話をさせていただくことができてたいへん楽しく過ごすごうでした。



懇親会にて



第四ブロック長 豊田 豪

## 第五ブロック

平成二十六年度第一回の第五

ブロック会議を、九月十六日に豊橋市商工会議所にて開催いたしました。ブロック会員十八社中十二社の出席で手塚事務局長にもご参加いただきました。

第一〜第四合同ブロック会議と同様に災害緊急時対応委員会の企画により愛知県の愛知真弓課長補佐による事故・地震対応に備えた化学物質対応の研修講演を頂き、大野ブロック長より理事会報告及び各委員会活動報告を行いました。会議終了後は懇親会を開催し、交流を深めました。

## 第五ブロック長 大野 哲

## 速報！日環協全国セミナー

第二十二回 日環協・環境セミナー全国大会が、九月二十五日(木)から二十六日(金)にかけて山口県宇部市で開催されました。

村本中国・四国支部長の開会宣言と、田中日環協会長の挨拶で開会されました。また地元宇部市の久保田后子市長から宇部市の産業と観光の紹介もありました。

その後の特別講演では環境省から水環境行政の動向と国立公園認定八十周年を迎えた瀬戸内

海の自然を守る取り組みの紹介を、また地元吉田松陰を祭る松陰神社宮司様の講演など、地元色あふれる内容でした。

技術発表会は三ブースに分かれて二十四題の発表があり、愛環協からも一題の発表があり、それぞれに活発な質疑応答がありました。

最終日、オプショナル企画として、宇部興産を視察する産業観光バスツアーが開催されました。宇部興産の事業規模の大きさに感嘆すると同時に、セメント原料を搬送する巨大トレーラー等も試乗できました。宇部市は一九五〇年代以降、激しいばい煙公害を発生させましたが、企業・自治体・住民が連携して公害問題を改善した「宇部方式」と呼ばれる対策が功を奏して、青空の見える宇部市を取り戻したそうです。

環境セミナー全国大会は、毎年支部の持ち回りで開催されますが、来年度は関西支部で開催(大津市)されます。また、再来年は中部支部での開催予定となっております。愛環協としてもその準備をスタートさせることとなります。

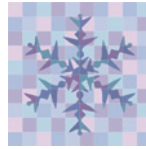


# 委員会等活動報告

## ○総務委員会

委員長 大野 哲

本年度第三回の総務委員会を十月二日に開催しました。計量証明事業登録をされたばかりの入会希望者の訪問審査結果及び景況調査方法の見直しについて審議を行い、理事会に上程いたしました。



## ○企画委員会

委員長 柴田 金作

当委員会の平成二十六年年度のテーマとして、引き続き研修・講演会への応援支援及びアンケートの実施ともう一つ環境計量証明にたずさわるみなさんに幅広く意見交換の場を持つていただける企画の二テーマを決定しております。理事会においてこの企画を承認いただきましたので速やかに実施に向け委員会を開催したいと考えます。

## ○教育研修委員会

委員長 服部 寛和

七月九日に十三名が参加し初級統計研修会を開催しました。

## ○広報委員会

委員長 渡辺 敏紀

平成二十六年八月二十二日に第二回の委員会を開催いたしました。「あいかんきょう百二十一号」の掲載記事について協



## ○技術委員会

委員長 長尾 隆宏

十一月十一日には「環境計量士等研修会」を予定しています。多数のご参加をお願いいたします。



## ☆水質・土壌ワーキング

第一回共同実験を模擬排水中の鉄、マンガンを対象として、参加機関五十三社・五十六口（県内四十四社・四十七口、県外九社・九口）で実施しました。

実験結果はZスコアにより現在解析中で十月末に中間報告をホームページに掲載すると共に近日中に結果検討会の参加案内をしますので多数の参加をお待ちしております。結果説明の後、グループに分かれてのディスカッションも実施します。

## ☆大気・臭気ワーキング

平成二十五年八月にJ-I-S Z 8808排ガス中のダスト

濃度の測定方法の変更があり、各事業所においてばい煙を取りまく環境の変更があり大変苦慮していることと思われま

す。各事業所の問題点を提起してもらい、十月末にアンケート結果を配布できるように集計しておりますので今しばらくお待ちください。また、一月上旬に取りまとめた内容について検討会を開催予定ですので、関係各位の参加をお願いします。

## ☆騒音・振動ワーキング

十月二十日にウイंकあいち

で平成二十六年第二回共同実験を開催します。内容はオクターブ及びFFT等の周波数分析の「基礎講義」、講義に基づいた最新機器による「体験実験」、事例・体験紹介等の「グループディスカッション」を行います。

体験実験及びディスカッションについて結果を集計し参加各位に配付する予定です。

## ○対外交渉委員会

副委員長 鎌田 務

平成二十六年八月五日に第二回委員会を開催し、今年度事業

として実施する施設見学会について詳細をきめました。

・見学先：田原市蔵山王メガソーラー及び豊川浄化センター  
・実施日：平成二十六年十月十七日（金）

また、今後の委員会活動について話し合いました。

## ○ホームページ委員会

委員長 金田 哲夫

平成二十六年第三回ホームページ委員会は平成二十六年八月二十五日に開催、ホームページの更新作業については平成二十六年七月三十日に実施した。

第三回委員会では、ホームページ委員会主催写真コンテンツの応募が一件であることから対策を検討した。実施対策として再度代表理事名義でコンテンツの通知の実施依頼をする、理事会・ブロック会議において応募のアピールを行う、委員の所属会社でのアピールを行うことが決まった。また継続案件であるホームページにおける書類保管庫の整備について検討を行った。各資料の保管の必要性については理事会において各委員長に諮ることとなった。個別詳細





マニュアルの整備については、写真の整備・PDFの作成・Flashの作成について個別マニュアルを順次用意していくことが決まった。

ホームページ委員会からのお願いとして、大勢の会員の方からの写真コンテストの応募を期待しております。



秋、ザクロの実

○災害緊急時対応委員会

委員長 鎌田 務

平成二十六年八月五日第二回委員会を開催し、今年度事業として計画した、地震災害時に備えた勉強会の内容について、ブロック会議開催時に「化学物質対策について」事故・地震災害等に備えて」と題した講演を愛知県環境部環境推進課リスク対策グループ 大谷真弓課長補佐にお願ひ致しました。今回は第一、二、三、四、ブロック合同第五ブロック単独開催での勉強会としました。

また、十一月七日に開催される日環協東北支部の経営者セミナーで大野委員が災害緊急時対

応委員会を代表して講演を行う事が報告されました。

今後の活動として理事会の承認を得ながら、愛知県及び豊橋市と締結した協定に基づき具体的内容を詰める事を申し合わせました。



研修会聴講記

中堅実務者研修会

聴講記

株式会社 エステム

開発営業部環境調査センター

伏見 秀明

平成二十六年九月十七日と十八日の二日間に渡り中堅実務者研修会に参加しました。本研修はその名の通り中堅実務者を対象に開かれ、統計処理を中心に、精度管理全般について理解を深めるための講義が中心となりました。研修全体を通して精度管理の手法や実務の中での統計の活用方法などを学ぶことができ、環境測定分析および計量全般について必要な知識を習得する上で非常に有意義なものとなりました。

一日目は、半日に渡ってサンプリングと機器分析における精

度管理についての講義でした。講義の中では、測定値のばらつきに対してサンプリングが寄与する影響や、サンプリング誤差およびトラベリングにおける汚染に対する評価方法について、

それぞれ具体的に計算式を用いて説明していただきました。私自身、普段の業務の中でサンプリングを行うことがあるのですが、慣れが生じてくると、ともすれば気が抜いたサンプリングをしてしまいがちになってしま

います。しかし、今回の講義でサンプリング誤差が分析値に与える影響の大きさを数値によって示されることで、サンプリングの重要性を再認識することができました。一方、機器分析の精度管理に関する講義では、原子吸光法やICP発光分析法などといった環境測定分析で主要となる分析機器について、その測定原理と精度管理のポイントを学びました。私は普段の分析業務では手分析に携わることが多く機器分析について不案内な部分が多いのですが、装置ごとの原理や特性を知ること、機器分析の精度管理の際に気を付けなければならない内容について理解を深めることができました。

続く二日目の講義では、参加

者各自がPCを持ち込み、統計量や検定などについての演習が中心になりました。環境測定分析業務において、得られた測定結果についてはその妥当性の評価が重要になる訳ですが、しばしば試料の採取された現場に存在する特有のマテリアルバ

ランスや、経時変化による増減の傾向などが判断基準になることがあります。しかし、結果の妥当性のみならず、サンプリングを含めて分析全体の不確かさについても、やはり統計的手法を用いて評価する必要があります。実際に講義の中で統計処理の演習を進めていくと、どの場面での手法を適用すべきか分からなくなってしまうたりする

ような場面がありました。また、単純作業として統計処理のみができれば良いという訳ではなく、PCがせっかく煩雑な計算を処理してくれても、得られた統計量や演算値の持つ意味についてしっかり理解していなければ評価を誤ってしまうということを実感しました。統計は非常に奥が深く難しい分野ですが、内容をよく反復して、実務の中で使いこなせるようにしたいと思います。PCを用いた演習以外には、不確かさについての講義

がありました。日常の環境測定

分析業務においてはしばしば、経験や勘などから数値のばらつきに対して「誤差範囲」という言い方をしてしまいがちですが、これまで私自身、日常の実務の中で不確かさをきっちり数値に示すという経験がありませんでした。講義の中では実際の分析フローを参照しながら特性要因図を用いて測定工程におけるばらつきを抽出してみたり、

体積計に表記される許容誤差から繰り返し測定における不確かさを算出したりと、実務の中で不確かさをどのように評価していけば良いかがイメージしやすくなりしました。

研修全体を通して、サンプリング時の基本事項の確認から測定結果の不確かさの算出まで、幅広く学ぶことができました。今後は主観的ではなく客観的にデータを判断してその信頼性が確保できるように、今回の研修で学んだことを実務に取り入れ、より精度の高い事業所を目指していきたいと思えます。

研修全体を通して、サンプリング時の基本事項の確認から測定結果の不確かさの算出まで、幅広く学ぶことができました。今後は主観的ではなく客観的にデータを判断してその信頼性が確保できるように、今回の研修で学んだことを実務に取り入れ、より精度の高い事業所を目指していきたいと思えます。





## 測定機関紹介

△  
▽  
▽  
△  
△

(株)ノリタケカンパニーリミテド  
三好事業所  
テクノサービスグループ

山口 敏範

### 一、会社概要

当社創立までの歩みは、ペリー来航で鎖国が解かれたばかりの明治維新直後まで遡ります。海外貿易を志した創業者森村市左衛門と豊の兄弟は、一八七六(明治九)年東京銀座に貿易商社「森村組」を創業し、ニューヨークに日本で仕入れた骨董品や陶磁器などを扱う輸入雑貨商「森村ブラザーズ」をスタートさせました。

その後、欧米の文化に触れて海外製の美しい陶磁器に魅せられた創業者たちは、日本で「白く精緻な陶磁器」を製造することを決意し、一九〇四(明治三十七)年名古屋市西区則武の地に日本陶器合名会社(現ノリタケカンパニーリミテド)を創立しました。

その後、日本陶器からは、一九一七(大正六)年に衛生陶器部門が東洋陶器(現OTTO株)として、次いで磚子部門が一九一九(大正八)年に日本磚子(現日

本ガイシ株)として分離独立しています。一九三六(昭和十一年)には日本磚子から点火栓部門が分離して日本特殊陶業(株)が設立され、今日の森村グループの基礎が形成されました。

当社は、食器の世界的ブランドを目指す一方で、洋食器の製造で培った粉体「成形」「焼成」「印刷」などのセラミックスに関わる様々な技術을追求し、新たな事業の開拓に挑戦してきました。



写真1. 1914(大正3)年に完成した我が国初のディナーセット「セダン」

現在では、食器事業以外に、食器の仕上げ加工用に内製していたセラミック製「砥石」の技術を基とした工業用研削砥石、ダイヤモンド・CBN工具、研磨布、紙等を扱う工業機材事業、食器の面付けに使われる転写紙の印

刷などの技術を応用した電子部品や蛍光表示管等の製品も、またその材料を扱うセラミック・マテリアル事業、焼成の技術を活かした焼成炉や乾燥炉、ろ過装置等を扱うエンジニアリング事業など、四つの事業に展開してきて、現在、国内外で約四千名の従業員が働いています。

最近では、太陽光発電やリチウムイオン電池、燃料電池等の新エネルギー分野など、次世代に向けた技術や製品の開発にも取り組み、(食器のように製品が人々の目には触れることはありませんが)、多くの産業分野で当社の製品が使われています。



写真2. ノリタケカンパニーリミテド本社(名古屋市西区)

### 二、部署紹介

当部署は、みよし市にある三好事業所に属しており、二年前前に建ったばかりの新しい研究開発棟で業務をしています。機や分析装置のレイアウトを熟考して動線の最短路に取り組み、コミュニケーションロスを低減したことから、ミスが低減されるとともに作業効率が向上しました。



写真3. 研究開発棟

当部署は、現在、特にセラミックスに関係した分析技術の深耕と拡大に取り組んでいて、主要業務は、各事業部やグループ会社で扱っている材料や製品の粉体特性、機械特性、熱的特性等の物性評価や、電子顕微鏡を用いた表面観察、EDS等による表面分析、X線回折装置を使った結晶構造解析、ICP、AAS、XRF等での化学分析、FTIR、GCMS等を用いた有

機分析です。一方、各工場の工場排水や工程水の分析、臭気やアスベストの分析、騒音・振動や作業環境の測定(粉じん/特定化学物質/金属類/有機溶剤)なども重要任務で、これらは当社の環境活動の一翼を担っています。

近年の取り組みとしては、装置の維持管理や分析精度の向上、管理の徹底はもちろんですが、各事業部の新商品開発に役立つ、より高度な分析に力を入れています。表面、断面、界面の構造や形態をナノスケールの分解能で観察、分析することが増加しています。従来以上に高度な分析が要求されています。その他、所属社員の質的向上については、社内での講習会を開催したり、社外の講習会等に積極的に参加することで、分析のレベルアップを図っています。

今後も、新エネルギー分野等の新商品開発や環境分析に役立つとともに、地球環境の保全に貢献することを目指して努力を重ねていきたいと思っております。



# ▼▼ 賛助会員紹介 ▲▲

ば幸いと考えています。

平成二十三年四月より貴協会の賛助会員として参加させて頂いた、ラボテック株式会社と申します。

弊社は平成二年二月広島市佐伯区に設立いたしました。

分析や装置開発を行っていましたが、現在はLAセンター(自動分析装置開発製造販売)及び分析事業センター(両部門合計七十名で事業運営をしています。社内では皆様と同じ環境計量作業環境測定の実業も行っており、装置開発は、分析現場で実感する「こういう装置があったら便利だろう」という発想と経験を両部門で情報交換し開発を行い、完成した装置は分析事業センターで稼働させ、技術者の声を反映させる事で安全性・分析精度・信頼性・効率効果を常に確認し改良しています。

お客さまのニーズに対応した商品となった時点で販売している為、皆様に広く長くお使い頂いてきています。これからは協会賛助会員としても皆様にたくさんの元気をいただきながら、共に分析業界の発展に貢献させていただき

## ★製品紹介

### ○自動 BOD 測定装置

BOD-990

本装置はフラン瓶に電極浸漬型の自動BOD測定装置です。

フラン瓶に直接電極を漬けることにより配管のチューブ、ポンプが無く日常のメンテナンスが容易で、交換部品の費用も大幅に削減できる装置となっております。



### ○自動希釈装置

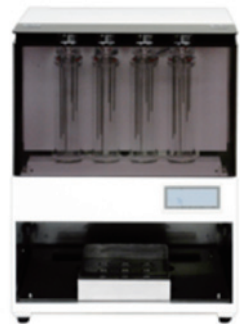
KI-100

本装置はBOD測定用の希釈作業を自動化した装置です。

サンプルを投入する事により、任意の希釈倍率で倍々の八検体三段希釈二十四本を、約四分で行うことで効率化が図れます。

本シリーズはDO-1用・DO-5用の八検体三段希釈四十

八体タイプもご用意しています。  
(※二段希釈も可能です。)



### ○n-1ヘキサン抽出装置

HX-400

本装置は四検体コンパクトタイプのn-1ヘキサン抽出装置です。

サンプルをセットするだけでHex自動抽出を四検体三時間(二検体四十五分)で行う事が可能です。



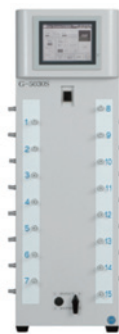
### ○ガスインジェクタ

本装置は作業環境測定における直接捕集で測定を行う際に使用するガスバック装着用のオートサンプラーで、ガスクロマトグラフにサンプルを自動注入する装置です。

夜間の自動分析が可能となり非常に省力効果が高い装置とな

ります。

弊社内でも二十年以上使用しておりますが、故障の少ないメンテナンスフリーの装置となっております。安心してご使用頂けます。



### ○飲料水自動測定システム

(TOC、色度、濁度、pH、過マンガン酸カリウム消費量)  
本装置は、飲料水の省略不可項目をはじめプール、浴槽水、食品衛生法などの項目を自動測定する装置です。

オートサンプラーにセットされた容器から検体を吸引し各項目を測定後、パソコンの帳票に出力するシステムで、夜間の自動測定が可能となり水道法二十条対策の省力化に絶大な効果を発揮します。

ラボテック株式会社 元木 宏



飲料水自動測定システム

## 事務局からのお知らせ

### ○環境計量士等研修会

十一月十一日  
日本特殊陶業市民会館

### ○第一回共同実験結果説明会

十二月二日  
日本特殊陶業市民会館

### ○大気・臭気WG勉強会

一月八日  
日本特殊陶業市民会館



# ◆◆◆ 趣味のコーナー ◆◆◆

## 私の趣味

〜 A River Runs Through It 〜

株式会社 環境科学研究所

代表取締役 林 昌史

### ◆私の趣味『魚釣り』

私は小学校では野球・柔道・サッカー、中学でサッカー一筋、高校で柔道一直線、大学では柔道・テニスほか楽しければ何でもと先生や友人から誘われるが、さまざまなお事にチャレンジしてきました。しかし、幼少のころから現在に至るまで一貫して続けているのが『魚釣り』です。



この日一番大場所を前にして

### ◆釣りの一日

私が最も好きな釣りスタイルは、溪流でアマゴ・イワナを狙っ

たエサ釣りとテンカラ釣り(日本式毛ばり)です。

木曾福島や奥矢作方面へ出向くことが多いです。割と名の通った場所です。釣り人が多い分、魚も賢く、たまに魚達に手痛くイジメられることがあります。

釣行前日は、まだ見ぬ獲物を想いワクワクして眠れず、そのまま夜中に家をでて川を目指すこともあります。釣り場に着くと川を一巡りして、東の空が明るくなり始めたころ、釣り支度をして入川です。

### 『そして第一投』

一投目でいきなりアタリがあった時は『やった！さすが自分！』と叫びたい気持ちをぐっと堪えて、陸と川を挟んでの真剣勝負が始まります。

この勝負は時間にして十数秒から長くても一分ほどでしょう。この間に竿を伝わってくる魚の動きとテグスが水を切る振動、そして自分の鼓動が合わさり何とも表現しようのない至極のときです。

そして、時刻にして七時ごろ

でしょうか、太陽が昇り気温が上がり始めるころに、川は最高に美しい時を迎えます。川面の一メートルくらい上に霞がかか

るのです。木々の緑と澄んだ川の水、そして川面の上にゆったりとかがった霞。

この風景は言葉では表現できないほど幻想的で、自然の中に自分が溶け込んでいるように感じます。



目と心に優しい景色の中での1日

そして、昼ごろに納竿し、川辺で小一時間ほど昼寝をしてから家路につきます。

さて、家に着いたらもうひと仕事。その日の釣果に感謝しつつ、おいしくいただきます。

私のお勧めの調理法はほんの少しだけオリーブオイル使った塩焼きか香草焼きです。白身で淡白な味わいの魚ですが、一層うまみが増すように思いま

す。こうして、私の趣味の一日が終わっていきます。

### ◆私と釣り

ここまでは私の釣りの一日を恥ずかしげもなくお話しさせていただきました。ここからは私の釣りの歴史と関わりについて少しほど。

私の釣りは五歳頃からの田んぼでのザリガニ釣りに始まり、ため池でのフナ釣り、そして夏休みは母の在所での海釣りを経て、現在の溪流釣りに至っています。また、子供の頃からの私の釣行は、二つ歳の離れた兄ともにもありました。

子供の頃の釣りの腕前は兄には年齢差の分だけほんの少し及びませんでした。でも、二十歳ごろから始めた溪流釣りでは、私の腕が上回っていて、現在に至るまでリードしていると自負しています。

子供の頃の私は少しの暇さえあれば兄と釣りに行っていましたが、二十代の頃は月に一、二回、以降は徐々に回数が減り、ここ数年は仕事や家族のことなど趣味よりも優先すべきことが増えて思うように出かけられませ

ん。釣りから離れたここ数年で兄の腕前の方が上になっているかも？と、本稿を執筆して少

し心配になってきました。でも、私も不惑の年を過ぎ、いつの頃から耳にした『ひと時を楽しむなら酒を飲みなさい、三日間楽しむなら結婚をなささい。一生楽しみたいなら釣りをしなさい』という外国のことわざをしみじみと思い浮べています。

これからも時が流れ、私のライフスタイルが変化しても、川は変わらぬ姿でいつまでも流れ続けていることでしょう。

またいつか訪れる川の渓相、出会う魚達を想像し、仕掛けを作り、竿を磨いている毎日です。

おわり



釣りに行けない時は近所でジョギング

### 環境・時の話題

#### 「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」

##### 一 はじめに

最近、太陽電池パネルを何枚も並べた大規模な太陽光発電施設を色々な所で見かけるようになりました。その背景には、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の導入があるようです。今回は、固定価格買取制度について紹介したいと思います。

##### 二 固定価格買取制度とは？

固定価格買取制度とは、発電事業者が太陽エネルギーや風力エネルギーなどの再生可能エネルギーを利用して発電した電気を、電力会社が一定期間、固定価格で購入する制度です。世界の五十か国以上で再生可能エネルギーの導入を促進するために実施されている政策です。

日本では、東日本大震災が発生した二〇一二年三月十一日に「電気事業者による再生可能エネルギーの調達に関する特別措置法(再生可能エネルギー特措法)」が閣議決定されました。ここでは、再生可能エネルギー発電事業者の生産した全電気を、電力会社が固定価格で買取ることが義務づけられ、二〇一二年

七月から固定価格買取制度がスタートしています。電力会社は、消費者に再生可能エネルギーを買取するための費用を、電気料金に上乗せできます。

##### 三 再生可能エネルギーのメリット

石油などの化石燃料は、将来的に枯渇する恐れがあるものもあり、地球温暖化の原因である二酸化炭素を排出する問題があります。また、原子力発電は、放射性物質が放出される重大事故が起きる可能性があり、放射性廃棄物をどのように処理するかも大きな問題です。

それに対して、再生可能エネルギーは、多くのものは、その発生源は太陽であると考えられるため、無限のエネルギーと言えます。また、二酸化炭素や汚染物質を排出しません。また、一国内で考えれば、他国からの輸入にたよることなく、エネルギー自給率を高めることができるメリットもあります。

##### 四 再生可能エネルギーの利用促進のために

一般的に、量産化が進んでいない再生可能エネルギーを利用して電気を発電する場合、その生産コストは、設備投資がかさ

んで高くなります。当面の価格だけを基準にすると、海外から化石燃料を輸入にした方が安い、原子力発電の方が安いとなり、現状でのコストの高い再生可能エネルギーの普及は進みません。

つまり、再生可能エネルギーによる発電する事業者の経営を支えるには、生産される電気を高い価格で買い取る仕組みが必要です。さらに、ある程度の期間、その価格を保証することにより、発電事業者は経営を維持することができ、法律により、一定期間、高い価格で販売でき、初期投資を長期間かけて回収できることを安定的に保証する固定価格買取制度が登場しました。

##### 五 国内での導入実績

国内での導入実績は、二〇一三年末時点で、固定価格買取制度の認定を受けた発電設備は約七十七万件で、発電容量はおよそ三〇〇〇万キロワットです。

ただし、運転を開始したものは、約五十三万件で、発電規模ではおよそ七百万キロワットです。その大部分は、太陽エネルギーで、現在はちょっとした太陽光発電パブルの様相です。原子力発電所の発電出力が一基百万キロワットと考え、太陽光発電の

発電出力が弱いことを考慮すると、だいたいの原発一基分の発電量に相当するようです。

##### 六 参考文献

・エネルギーのしくみ

監修者 飯田 哲也

・エネルギー改革が日本を救う

中島 洋

(文責 大場恵史)

##### 編集後記

先ず初めに百二十号発行に際しましては、一部誤りがありましたので下記のとおり訂正のお知らせと併せてお詫び申し上げます。

さて、百二十一号は七月号一月号との谷間となり、大きなトピックはございませんが、各委員会、ブロック会議など地道に活動しており、十月以降もさまざまな活動が予定されております。

今回の百二十一号の編集は豊田副委員長、大場委員が担当しました。広報委員会としては編集・構成・企画がマンネリ化しないようにまた読者に今後も愛される機関誌となるよう努力してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

### 「あいかんきょう」120号の訂正のお知らせ

あいかんきょう機関誌第120号におきましては、その内容の一部誤りがありましたので以下のとおり訂正のお知らせと併せて謹んでお詫びを申し上げます。

①2p一段目 左側写真下

(誤)伊藤愛知県環境部技官 → (正)伊藤愛知県環境部技監

②2p右下 優良従業員協会表彰受賞者

(誤)松 志保 → (正)松崎 志保

(誤)森 恵子 → (正)森崎 恵子

③5p五段目 左右の円グラフを入れ替え

発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会  
代表理事 河野 達郎

〒460-0022

名古屋市中区金山1-2-4

アイディエリア405号

TEL・FAX 052-321-3803

E-mail aikankyo@nifty.com

編集 (一社)愛知県環境測定分析協会  
広報委員会